

1 部

学習サポート

各種申込締切について

『試験・スクーリング 情報ブック2015』にてご確認ください。

- ・ p. 4～5→学年暦 ・ p. 17～21→通信教育部カレンダー
- ・ p. 42～44→社会福祉士 演習・実習科目関連締切等
- ・ p. 45～48→精神保健福祉士 演習・実習科目関連締切等

9 / 25 ～ 11 / 4 の追加・変更点

- 「特講・社会福祉学18(生活困窮者自立支援の実際)」のスクーリング申込
開講日が11 / 7・8に決定になったことから、履修登録および取消の締切日が9 / 30となりました（本冊子p. 51参照）。
- 「科学的な見方・考え方」スクーリング申込
開講日が10 / 16～18に変更となり、9 / 30まで申込みを受け付けます。
- 「スポーツ（バーンゴルフ）」スクーリング申込
大雨特別警報により延期のスクーリング新日程が11 / 14～16に決定したため、10 / 8必着で再度申込みを受け付けます（p. 52参照）。

●大雨による被害を受けられた方へ●

9月の栃木・茨城・埼玉・福島・宮城などにおける豪雨水害により被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。被災された方々が1日も早く通常の生活に戻られますことを、心より祈念いたしております。

通信教育部の教材・副教材に損傷を受けた方は、無料で再交付いたしますので、お申し出ください。その他、被災された方で配慮を希望する方は通信教育部までご相談ください。

心理学の実験・講義を 受けるにあたって

教員 MESSAGE

助教 柴田 理瑛

皆様がこの文章を読む頃には、まだ心理学のスクーリングやレポート課題をあまり受けていない方もいらっしゃるかもしれません。そろそろ卒業が見えてきている方もいらっしゃるかと思います。このように幅広い読者を対象として文章を書き進めることは中々難しいものですが、ここでは心理学の実験・講義を受けるにあたっての基本的な用語の確認や注意すべきポイント、レポートの書き方について触れてみたいと思います。

独立変数と従属変数

多くの心理学に関する研究では、ある特定の環境（刺激：独立変数）における心のはたらきについて解明することを目的にしています。そうはいっても心を目で見ることではできませんから、心のはたらきと非常に強い関係がある行動（反応：従属変数）を観察することで、特定の環境における心のはたらきを明らかにしようとするわけです。たとえば、「矢羽の長さが錯視量（見た目の長さ）に与える影響」というタイトルであれば、矢羽の長さ（独立変数）に従って錯視量（従属変数）がどのように変化するかを測定し、錯視量の変化から錯視を生み出す心のはたらきを明らかにすることを目的にしていると理解できます。このように考えると、**タイトルからその研究の独立変数と従属変数が読み取れる**ようになっていることがお分かりいただけると思います。

心理学実験のスクーリングに参加されると、授業の冒頭で資料が配布されると思います。配布された資料を見たときに、タイトルを見ただけで独立変数と従属変数が頭にイメージできるようになったり、タイトルに独立

変数と従属変数のどちらかが不足していても全体をざっと見て自分で補えるようになったりできると、その後の実習が非常にスムーズになります。

実験・調査を行う前のポイント

さて、心理学に関する実験（調査）を行うにあたって、実験を行う実験者（調査者）と実験を受ける実験参加者（調査対象者）が必要になります。そのほか実験を行うための装置や調査研究であれば質問紙なども必要となります。実験者や実験参加者、装置や質問紙がそろったとしても、実験者による教示がなければ、実験参加者全員から等質なデータを得ることはできません。教示、すなわち実験者による実験参加者への明確かつシンプルな指示がなければ実験は成功しないのです。たとえば、ある実験を行うとき実験参加者に「〇〇課題を遂行せよ」とだけ教示するとします。この場合、実験参加者の反応は回答のスピードは速いが誤答だらけ、正答は多いが回答のスピードが遅いといった大きく分けて2つの異なるデータが得られることでしょう。これでは実験でもうけた条件（独立変数）以外の条件（回答のスピードを優先するか正答率を優先するか）が実験参加者の反応（従属変数）に影響を与えてしまうことになります。このようなことをできるだけ避けるために、実験者は実験参加者に対して明確でシンプルな教示を与えることが必要です。

実験中のポイント

まずは実験参加者の心構えからお話ししましょう。言うまでもありませんが、決していい加減に取り組んではいけません。また、寝不足の場合、非常にデータが乱れたり、ひどい場合には実験中に眠ってしまったりしてデータが取れないことがあります。十分な睡眠をとって実験に臨みましょ

う。それから、教示を聞いたあとに勝手に仮説を推測し、「〇〇な結果を出してみよう」といった意図を持つのもやめましょう。目の前に現れる刺激に対して真っ白な心で（なんの意図や期待も持たず）毎回新鮮な気持ちで臨むことが必要です。単調な実験では同じような刺激が延々と続く場合がありますが、慣れてきたからといって適当に判断をしない、ということです。

実験者の心構えとして最も重要なことは、後に結果の分析に使用するデータを一回毎正確に記録することに細心の注意を払うということです。併せて実験者あるいは実験参加者として気づいた点なども記録しておくといいでしょう。学習心理学の講義でも言っているのですが、そのときは覚えていたとしても人はすぐに忘れてしまいます。主観的で質的なデータは客観的で量的なデータよりも信頼性に欠けますが、質的データをきちんと記録に残すことで量的データが質的データに裏づけされ、より質の高いレポートが作成されるのです。

レポートの作成

心理学の論文や実験レポートでは、「目的、方法、結果、考察」という4つの基本項目によって構成されています。この4点について全体の流れ（ストーリー）が一貫していることが求められます。目的を達成するために必要な方法と方法に記述されている実験の手法にズレがあったり、目的で明らかにしたい内容と考察で主張している内容が全く別の内容であったりしてはいけません。実験スクーリングでは、目的や方法の部分は配布される資料に既に印刷してあることが多いと思いますが、かえって考察から書き出すことが多く、しばしば目的と考察の内容にズレがあるように思われます。

このほかレポートを書く際には、各パラグラフ（段落）の分量にも気を

つけてみましょう。このことはレポート課題においても当てはまります。あるレポート課題で「〇〇と△△について述べよ」といったような設問がある場合に、「〇〇」については1ページ半も論述があるのに対し、「△△」については半ページしかない、というようなレポートは、非常に構成が悪い印象を受けます。もう少し具体的に言うと、「〇〇」については良く調べてあるが、「△△」についてはあまり調べられていない、というような評価もされてしまうでしょう。このように、レポートを作成する上では各まとまり（目的、方法、結果、考察や段落）の整合性と一貫性、分量といったポイントが非常に重要です。

最後に

いかがでしょうか？ 心理学関連のレポートや授業への参加が少しでもスムーズになることを期待しています。

参考文献

日本心理学会, 認定心理士資格認定委員会 (編) (2015) 認定心理士資格
準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 公益社団法人 日本心理学会
pp xi ~ xviii